

COVID-19 対策としてのオンライン授業化に向けた FD 活動と授業実践

Faculty Development Activities and Class Practices for Online Classes to Prepare for COVID-19

米満 潔^{*1}, 古賀 崇朗^{*1}, 永溪 晃二^{*1}
 Kiyoshi YONEMITSU^{*1}, Takaaki KOGA^{*1}, Koji NAGATANI^{*1}
^{*1} 佐賀大学全学教育機構
^{*1} Saga University Organization for General Education
 Email: yonemik@cc.saga-u.ac.jp

あらまし：日本における COVID-19 の感染の拡大状況を鑑み、本学でも 2020 年前期の授業を、すべてオンラインで開講することが決定した。これを受けて、本学で実施可能なオンライン授業の方法を検討し、それらの実施に向けた FD 講習会を全教員に向けて開講し、学生にもオンライン授業の受講方法についての情報提供も実施した。また FD 講習会の内容に沿った手法で授業を実施し、オンライン授業による教育効果の確認および FD 講習会の内容の検証と改善を試みる。

キーワード：オンライン授業, FD, クラウド, 協同学習, 反転授業

1. はじめに

2020 年 2 月以降、日本における COVID-19 の感染の拡大状況を受けて、多くの学会や研究会が中止もしくはオンライン開催となった。

佐賀大学（以降、本学と記す）でも、学内開催の学術イベントは中止となり、2019 年度の卒業式も 2020 年度の入学式も中止となった。さらに、2020 年 4 月には、本学の 2020 年前期の授業を、すべてオンラインで開講することが決定された。

この決定により、大学から全学教育機構に対してオンライン授業化に向けた教員向けの FD 講習会開催や教職員や学生向けの情報提供などが求められた。

オンライン授業への対応は、今年に限られたものではなく、今後も継続していくはずであり、それゆえに改善も要求されることが推測される。本稿では、オンライン授業の継続と改善に向けて、本学におけるオンライン授業化に向けたこれらの FD 活動と、それを踏まえた授業実践について報告する。

2. オンライン授業環境の検討

まず、本学が既に導入しているシステムの中でオンライン授業に利用可能なものを検討した（表 1）。

Live Campus は、サーバの空き容量が多くないこともあり、資料の配布や課題の提出での利用は控えて、教務システムのポータルとして通知連絡での使用とした。これまで Live Campus で実施していた資料の配布や課題の提出は、科目履修用か自学自習支援システムの Moodle もしくは Office365 の Teams を利用とした。ネット授業は、VOD コンテンツの SCORM 対応のための開発と検証に時間が必要となるため、新たな科目の追加は行わなかった。

これらのシステムは、基本的にオンデマンド型のオンライン授業に向いているものであるため、リアルタイムにコミュニケーションをとるためには新規にシステムの導入が必要となった。教員の中に利用

しているものがある Zoom と他大学で利用実績がある Cisco 社の Webex が検討され、最終的に Webex が導入された。

表 1 利用可能なシステム

プラットフォーム	名称	主な目的
Live Campus	Live Campus 教務システム	通知連絡, 資料配布, 課題提示
Moodle	ネット授業	VOD型eラーニング, 課題提示, 小テスト
	科目履修用	資料配布, 課題提示, 小テスト
	自学自習支援システム	自動収録された授業, 映像の配信
Office 365	Office 365	メール, 資料配布, 課題提示, 動画配信

※ Office365 は現在 Microsoft365 と名称を変更しているが、ここでは実践開始時の Office365 で統一する

3. FD 講習会の実施

利用するシステムが決まったので、各システムの使い方と授業動画の制作について資料を作成し、それらを教職員や学生に対して公開するオンライン授業ポータルサイトを開設した。

ポータルサイト開設後、教員向けに FD 講習会を実施した。FD 講習会は、まず、受講者全員にどのようなシステムが利用可能かを説明し（図 1）、その後教員が利用したいシステムごとのグループに分かれて詳細な説明を行った。主なグループは、以下の 4 つである。

- ・ Live Campus による通知連絡
- ・ Office 365 Teams による資料配布や課題
- ・ Office 365 Stream による動画配信
- ・ PowerPoint を利用した動画作成

FD 講習会は、基本的に対面で実施した。三密回避のために、1)100 名程度が入る広めの教室を使用、2)窓と教室のドアを解放、3)1 回の参加人数を 15 名に制限し間隔をあけて座る、という形態をとった。

ただし、Webex が利用可能になった後は、対面の他 Webex で参加するオンライン受講も実施した。オンラインでは 100 名以上の参加があった。4 月に開催した FD 講習会を表 2 に示す。

FD 講習会以外にも、電話やメールでの問い合わせへの対応、個別の説明実施の希望への対応なども行った。

おすすめのオンライン授業方法

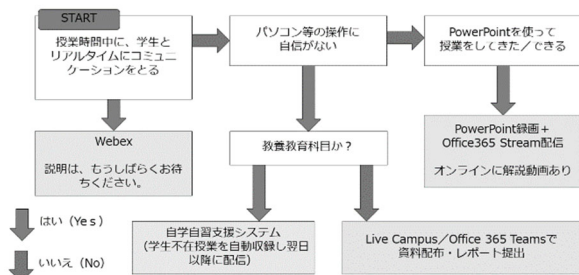


図1 オンライン授業方法選択

表2 FD 講習会

日付	内容	備考
4月2日	学年暦変更の通知	開講日：4月7日→4月21日
4月6日	企業によるWebex説明会	
4月8日	オンライン授業ポータル公開	
4月9日	オンライン授業FD講習会 (LiveCampus/PPTによる動画作成/Teams/Stream)	午後1回
4月10日	オンライン授業FD講習会 (LiveCampus/PPTによる動画作成/Teams/Stream)	午前1回、午後2回
4月13日	オンライン授業FD講習会 (LiveCampus/PPTによる動画作成/Teams/Stream)	午後1回
4月14日	オンライン授業FD講習会 (Webex)	午前1回、午後1回
4月15日	オンライン授業FD講習会 (Webex)	午前1回、午後2回
4月16日	オンライン授業FD講習会 (Webex)	午前1回、午後2回
4月21日	前期開講	

4. 授業の実践

以下、前期の担当科目のうち、授業すべての回においてWebexを使用してリアルタイムで行っている科目「情報基礎概論」と、授業をオンデマンドの動画配信の回とWebexを使用してリアルタイムの回を組み合わせで行っている科目「情報メディアコミュニケーション」での実践について述べる。各科目の概要を表3に示す。

表3 実践科目の概要

科目名	情報基礎概論	情報メディアコミュニケーション
対象学生	経済学部1年生	全学部・全学年
受講者数	1クラス100名×2クラス	50名×1クラス
授業概要	学内システムの利用方法Word/Excelの基本操作の習得	メディアやコミュニケーションの変遷や社会での活用を学ぶ
授業の到達目標	Excelの表やグラフを使用したレポートをWordで作成できる	多様なオンラインメディアによるコミュニケーションの実践と理解
利用システム	授業連絡は、Live Campus 授業は、Webex 資料提示や課題提示回収はOffice 365 Teams	授業連絡は、Live Campus 授業動画配信は、Office365 Stream 資料提示や課題提示回収は、Moodle (科目履修用)

4.1 情報基礎概論

昨年度までは、総合情報基盤センターのパソコン演習室で対面授業として実施していた。教員が指示したテキストの箇所に沿って、各自演習を行い、うまくできない、わからない学生を中心フォローする形態であった。資料の配布と課題の提出は、教務システム Live Campus を利用していた。

2020年度前学期は、対面による講義・演習・実習・実験が原則停止され、情報基礎概論もパソコン演習室での授業は行えない。ただし、本学は昨年度から

パソコン必携化のため、各自のパソコンを利用することができる。そこで、Webex でリアルタイムに授業を行い課題の説明をし、後は、各自演習行う形式とした。うまくできない、わからない学生は、Webex のチャットや会話あるいはメールでの質問でフォローしている。

4.2 情報メディアコミュニケーション

この科目は今年度新規に開講した科目である。シラバス作成時には、対面授業で協同学習の手法を用いたグループワークを主体としたものを計画していた。しかし、今年度はオンライン授業化のため、教室での対面授業ができなくなり、オンラインでのコミュニケーションに切り替える必要が出てきた。

そこで、まず、情報メディアやインターネットに関して理解してもらい授業動画を制作して Office 365 の Stream で配信し、それに関する個人の意見をまとめてレポートとして提出させることから始めた。その後、そのレポートを元に、Webex でオンラインコミュニケーションをとりながら、Google の Jamboard (ホワイトボードツール) などのグループワークツールを利用するなど、オンラインでも有効なグループワーク手法について実践と検証中である。

5. まとめ

FD 講習会やポータルサイトでの情報提供については、今後、教員に対して、FD 講習会の受講状況や自身の授業への活用度合いについて調査を行う。

また、4月の授業開始後に、Webex の試用版から正式版への契約変更に伴う機能制限の変化や、Office365 の Teams の設定や機能の利用について変更が随時なされている。今後、これに対応するための資料の修正が必要である。

これらの調査や修正も含め、来年度に向けてオンライン授業の環境整備やFD講習会の実施計画や改善を図る。

前期に実施している2つの授業については、今後、学生に対して、オンライン授業の受講環境や授業の手法や進め方について調査を行う。これにより後期及び来年度に向けて授業の手法や改善を図る。

今年度は、学びをとめないことを重視して、オンライン授業に関する教育の質や、著作物の利用に関しては、あまり厳しく問われることはないようである。ただし、これは、あくまで今年度限定の特例措置であると考えている。

大学としても、授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) への届け出など社会情勢変化への対応も求められ、教員個人としても、オンライン授業の改善だけでなく、その評価方法の確立、オンライン授業から対面授業への回帰なども検討しなければならない。

本稿に記載されている社名、商品名、サービス名は、各社が商標または登録商標として使用している場合があります。